

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600176		
法人名	有限会社佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福富3125番地2		
自己評価作成日	令和6年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年3月12日	外部評価確定日	令和6年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム佑紀苑は、地域の中のひとつ家として、「やすらぎと安心のある生活をご一緒しましょう。」という理念を掲げています。家庭的な雰囲気の中で、利用者様がゆったりと過ごして頂ける様に日々努めています。地域の方が声を掛けて下さる事も多いです。職員も殆ど変わらないメンバーで日々、和やかな雰囲気で働けているところもアピールしたいです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>有明海の広い干拓地の中に施設はある。レンガの塀と玄関に続く庭木や季節の草花のある庭は訪問者をやさしく迎えてくれる。利用者の過ごす施設の窓からは春には桜、夏にはレンコン畑の蓮の花、冬はレンコン畑の水沼に飛来する鴨の姿を楽しむことができ、四季の移り変わりを日々の暮らしの中で感じる事ができる。時間に追われない、のびのびとゆったりと、一人ひとりの気持ちを尊重した支援が実践されている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中のひとつ家として、「やすらぎと安心の楽しい生活を私たちと一緒しましょう」という理念を掲げ利用者との日々を大切にしている。理念は玄関と事務所に提示している。	理念は開設時の代表者の思いがこめられ、作られた。その思いは代々の管理者、スタッフが引き継いでいる。月1回のミーティング時に確認している。また目につく場所への掲示で意識付けも図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の沖ノ島参り、子供浮立など利用者の参加が来ている。福富中学校の夏のボランティアはコロナ前まで来られていた。終息したら受け入れる予定。年2回のクリーンデーも参加が来ている。	食材(米、味噌、醤油など)の購入は地元の店舗からの宅配を活用している。定期的な理美容は近くの理容店より訪問してもらっている。地域の行事に参加することで顔の見える関係づくりをしたいと管理者は考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の回覧板を用いて認知症研修報告や役場主催の認知症カフェ等の案内を届けて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議は区長、民生委員、役場の長寿社会課で書面で行っており、文書にて地域の事や行政の取り組みについて意見交換している。	書面での報告となっていたが、令和6年2月から施設で開催している。施設の現状の報告と介護に関わる課題である、感染症や身体拘束、災害時の問題など資料を作成し、情報交換の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石町長寿社会課、地域包括支援センター職員と意見交換を行っている。入居の問い合わせなど協力関係が築けている。	運営推進会議だけでなく、入居に関する情報交換や相談ができる関係が築かれている。管理者、介護計画作成担当者は町担当者と密に連絡を取り、より良い運営に生かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は虐待防止研修に参加し身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束の実施はない。研修やミーティングで全職員は人権について繰り返し学習している。利用者の行動を制止することはせず、遠目でも見守ったり、一緒に行動している。言動についても否定せず傾聴に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	web研修に参加し職員は資料に目を通し職員間でも声かけしながら業務に当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前まで成年後見制度について学んでいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居時は家族様と利用者様に充分説明を行って、理解と納得をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員とご家族様が直接話す機会があり、入居料支払い、病院受診送迎時等に意見交換が出来ている。ご家族様が遠方の場合は電話を対応している。	ご家族には「ゆうきえん通信」や病院受診同行時、毎月の利用料支払いのための来訪などの機会に話しをする機会はある。何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、月1回のケア会議などで話し合い意見を管理者が代表へ報告している。代表からの返答は早急に職員に伝えている。	代表者や管理者はともに職員の要望や意見を聞くように心掛けている。しかし、不満や要望は言い難いこともあり、把握しきれていない可能性もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休み等は職員の希望に添える様に努めている。職員から意見を聞いて勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年数回会議に参加している。Web研修も活用して事務所内での研修で知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前までは町内のグループホームの管理者が集まり情報交換していた。コロナが終息したら再度、会議に参加します。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状況を定期的に報告し必要時は、ご家族様に快く協力して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや見学時に話しやすい環境づくりに努めている。心配事、こうしてほしいという要望にもできる限り添える様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて支援を見極め、安心してサービスを利用して頂ける様に各職種連携して利用者、ご家族様を支援できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや、料理の味付けなど、分からない事があったら利用者の方へお伺いして教わる事が多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況を定期的に報告し、必要時は家族様に快く協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話を通し話して頂きお付き合いを継続して頂けるよう支援している。	昔から利用している美容院に通い続けている利用者や近隣の店舗へ買い物にも出かけている。ドライブの途中に自宅へ寄り道することもある。農作業している家族の姿を見て安心されたなどのエピソードもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声掛けしながら助け合い生活されている。物静かな時は職員が間に入り声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期に入居されていた方は担当者から近況報告があつたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様一人ひとりにご意向・要望・困りごとなど、会話の中で聞き出したり、話を傾聴して安心して過ごして頂けるように努めている。また朝の申し送り時などに話し合い、一人ひとりに合った支援を行います。	日々の暮らしの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し量り、それとなく確認するようにしている。利用者がどのように暮らしたいか、介護計画書の本人の意向に記載され、具体的な支援が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に協力頂き、生活歴などお聞きし馴染みの物を持ってきていただき、生活環境を少しでも変えないように努めている。またできる事のお手伝いなど無理なくして頂いたり歌が好きな人には、カラオケなども提供している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタルチェック・ご本人様からの聞き取りで、その日の状態把握を行い、その人に合ったお手伝い・散歩・読書などを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様面会時また電話で、ご意向・要望・困りごとなどをお聞きしたり、月に一回のミーティングの実施・申し送り時などに、ご家族様の意見・スタッフからの意見などを出し合い、一人ひとりに合ったプランを作成している。	本人の希望は日々の暮らしの中で把握し、家族の想いは来所時や電話での会話から汲み取っている。事前の家族アンケートでは「説明を受け一緒に話し合っている」と回答されていた。ケアプランはスタッフ全員で共有し、計画に沿った支援が実践されている。介護記録は毎月のモニタリングの貴重な情報である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に、日々の様子や状態を記録。ケアプラン実施表に添ったケアのチェックを行っている。また 申し送りノートを活用しミーティングでの気づきなど話し合い、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴拒否などされた時は、無理強いせず、次の日に入ってもらったり、清拭・更衣など行っている。また 起床が遅い方・その時間に食べたくない人には、時間を遅らせ食事の提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の掃除に参加。地域の方との会話などで情報共有と環境整備に努めている。また 運営推進会議には、地域の区長さん・民生委員の方出席頂き、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、家族様の希望に沿ったかかりつけ医となっている。	昔からの馴染みの医師のもとに通う方や、入居後に説明を聞き納得して協力医へ変更を希望した方など、それぞれが希望するかかりつけ医となっている。病院受診は原則家族対応となっているが、状況に応じて職員が付き添うこともある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理を行い、心配事は看護師や家族様に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様や医療機関との情報交換を行っている。早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応の説明をし同意を得ている。	要介護度や本人の健康状態を踏まえたうえで、特別養護老人ホームへの申し込みや、医療機関への入院など職種間で話し合いながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応ができるように職員間での情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防機器業者にも立ち会いして頂いている。	夜間を想定での訓練が実施されている。計画書、実施報告書が作成され担当消防署の確認印もある。実施記録には避難に要した時間も記載されており、次回の訓練に繋がっている。近年は自然災害による大きな被害が起きていることから、緊急時の行動基準が大事だと考えている。また食材などの備蓄についても何がどれだけ必要か再検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて丁寧な言葉かけを行うようにしている。共同生活の中でプライバシーの確保が守られるように配慮している。	目立たない、さりげない声掛けや対応に配慮している。本人の気持ちを大切に、自己決定しやすい手助けが行われている。食事の声掛けはするが、「後で」と希望された利用者には待って提供している。プラン化され、統一されたケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で、食べたいものややりたい事などの要望を話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿えるように努めている。必要時はご家族様に協力して頂き、外出もして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替えや衣類の準備は選んで頂いている。男性入居者は髭剃りの介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、楽しい時間になるようにしている。食材の宅配サービスを週3回利用している。入居者様に野菜を切ったり盛り付けをして頂いている。	担当の職員が宅配された食材や、冷蔵庫にある食材で調理している。また魚や肉などの食材が重ならないような配慮もされている。利用者の要望を汲んだ行事食ではウナギ(国産)を提供したこともある。今年のお正月は参拝後に握り寿司が提供された。一緒に考え一緒に作る食事を楽しんでいる。おやつには菓子類だけでなく、季節の果物を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定にて増減を把握し、一人ひとりの食事量を考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにて口腔内の清潔を保っている。義歯や口腔内に変化があれば協力歯科に相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、定期的に声掛け・誘導を行っている。便秘にならないように職員間での情報共有を行っている。	昼間はトイレでの排泄を支援している。任せたままでなく、さりげなく見守っている。オムツ購入は本人負担であるため負担減への配慮もある。毎日行われる「ゆうぎえん体操」は便秘改善のための運動も含まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、水分を多めに摂取して頂いたり、軽い運動を毎日取り入れている。おやつ時に乳製品の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態や心身の状況により入居者の気持ちを大切にしながら対応できている。週3回の入浴を振り分けているが状況によって対応できている。	入浴実施表を確認しながら、週3回の入浴が実施されている。利用者の好みの温度に調整したり、入浴剤の利用により温泉気分でも過ごしてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣に応じて寝具の調整を行っている。室温や照明にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内服薬について把握している。日付け・名前の確認を行い、飲み忘れのないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を発揮して頂く様に毎日のレクリエーションなどでお好きな事をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて外出可能であれば近隣へ散歩をしたりドライブや買い物への同行をして頂いている。	天候を見ながら近くの神社や店舗、花のある場所など日常的に出かけている。時には施設の庭先で食事会やおやつを楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はご家族の同意を得て所持されている。自己管理が困難な方は苑でお預かりし管理している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの要望があれば、なるべく希望に沿うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、光や照明・温度の調整などを行い、こまめに換気を行うように気をつけている。	ロビー、廊下などの共有空間は車いすでの移動にも余裕あるつくりとなっている。窓からは有明海の干拓地に広がる田園風景の季節の移り変わりを感じることができる。掃除は職員と一緒に利用者も行っている。換気に配慮し、手の触れる場所の消毒もこまめに行っている。トイレや浴室もきれいに掃除され嫌な臭いはしない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置には気の合う方、話の合う方と同席できるよう配慮している。状況に応じて席の配置を変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物や寝具などを持参していただいている。ご家族様の写真を飾ったりプレゼントの花を飾ったりしている。	居室は6畳と8畳(1部屋)がある。8畳の部屋は夫婦での利用を考慮されている。窓も広く明るい環境である。ベッドとクローゼットは施設で準備されている。その日着る服は本人と一緒に考えている。馴染みの家具や布団などを持ち込んでもらい、家族の写真や贈り物の花などを飾るなど、安心感のある環境づくりを心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立を妨げる事のない様に必要以上に手を貸さず時には見守るよう支援している。食事時の誤嚥、移動中の転倒防止にも努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない